

2 裁断

型紙に合わせて「革包丁」という道具で革を切ります。革の伸びる方向や、キズ・汚れを避け、無駄なく切れる位置を考えながら作業を行います。



1 計測・型紙づくり

足のサイズを測ります。両足の長さだけでなく、甲の高さや足の柔らかさまで確かめて、最適な靴の型紙を作ります。



革靴が できるまで



モノづくりが好きなので
楽しみにしていました！

小林 透子さん

時代の流れに
左右されない
一足です

矢倉 龍一さん

大切な一足が できあがるまで

靴づくりには約200の工程があります。現在では多くの靴が工場の機械で作られています。靴屋shiroではその全ての作業をこの店内で一人で行っています。私たちの履いている靴がどのように作られているのか、実際に使われる素材や職人の道具を見ながら学びました。ここではたくさんの工程のうち、代表的な作業を紹介します。

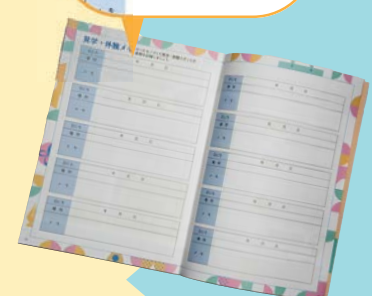
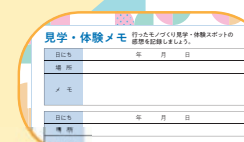
靴屋shiro

時代を超えて愛されるデザインの革靴を一人一人のサイズに合わせて製作。ベビー用の靴や、バッグ、財布、キーケースなど、プレゼントにぴったりの小物も手づくりしています。
●荒川区西尾久3-16-14
藤崎ビル1階
☎(6877)1106



荒川区

モノづくりスポットを 探して



区内にはたくさんのモノづくりスポットがあります。『モノづくり見学・体験スポットガイド』の冊子には、訪問を記録するメモ欄が付いています。この冊子を持って、ぜひ、スポット巡りをしてみましょう。

配布場所
区役所・図書館など

図工の授業への
見方も変わりました！



大滝 世宙さん

8 完成！

手づくりの革靴は自分にぴったりのサイズに仕上がるだけでなく、手入れをすることで、何十年も履き続けることができます。



3 縫製

革をうすくする「漉き」の作業後、革をミシンで縫い、パーツを組み立て立体的にしています。矢倉さんは、古い機械を譲り受け、メンテナンスをしながら使っています。



4 釣り込み

「ワニ」というペンチで靴の上部の「アッパー」を引っ張りながら釘を打ち、木型に密着させる「釣り込み」という作業を行います。



5 底縫い

曲がった針を使って「すくい縫い」の作業を行い、アッパーと中底に「ウェルト」と呼ばれる細い革を縫い付けます。本底と中底の間にはコルクで出来た「中物」を詰めます。



6 細部を整える

靴の形ができたなら、本底周りの革の切り口をヤスリで整え、専用の道具を使い「コテ当て」などを行い、靴の細部を美しく仕上げます。

7 仕上げ

木型を抜いて靴を磨き、靴ひもを通し、ロゴを印した中敷を入れます。ここでようやく、私たちがお店で見えるような靴の形になります。



革小物づくりを体験

キーホルダーづくり



靴の中敷にロゴを刻印するときなどに使う「箔押し機」を使って、名入れキーホルダーを作ります。



好きなアルファベットを入れることができます。今回はジュニア記者の名前を箔押ししました。



色の細やかな表現ができる「タンニンなめし」の牛革に、金色の文字とチェーンがキラリ。



靴づくり体験



靴づくりに使用するナイロン製の丈夫な糸を使って、二つに折った牛革を縫い合わせます。



牛革は厚くて硬く、布よりも難しさを感じたというジュニア記者。靴職人のような手つきです。

靴べらの穴に革ひもを通せば完成。体験を終えて、ますますモノづくりへの興味がわいたそうです！



完成！

モノづくりOXクイズ

- Q1 『モノづくり見学・体験スポットガイド』には、全部で20のスポットが紹介されています。
- Q2 靴づくりには全部で10種類の工程があります。
- Q3 靴づくりに使われる革にはさまざまな種類があります。

答えは4面にあります